御使用前に必ずお読み下さい

《 共同住宅用予作動式(湿式)流水検知装置 》　取 扱 説 明 書

ＰＶＴ－ＡＢＳ－４０型

この度は、ＰＶＴ－ＡＢＳ－４０型『共同住宅用予作動式(湿式)流水検知装置』を御採用いただき誠に有難う御座います。

本製品は厳しい品質管理の元で製造され、高度な品質と性能を誇る製品で御座いますので、御使用に関しまして下記事項および製品仕様書に御留意の上、御使用いただきますよう御願い申し上げます。

施工業者様におかれましては、本書の全項目をよく御読み下さい。また、施工業者様より**御施主様**へ内容をよく御説明の上、本書を御渡し下さい。

スプリンクラー設備が設置されてからの**設備管理にあたられる方**におかれましても、本書をよく御読みの上、関係者の周知して下さい。また、**本書はいつでも見られる場所に大切に保管して下さい。**

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく御利用いただき、御客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ず御守り下さい。

株式会社 立売堀製作所

本製品について

○不時放水による水損防止

ＰＶＴ－ＡＢＳ－４０型『共同住宅用予作動式(湿式)流水検知装置』(以下、共同住宅用予作動弁(湿式)という)は、地震時などのスプリンクラーヘッドの誤作動による不時放水や配管の破損などによる水損事故を未然に予防するため火災感知器との連動により作動する流水検知装置です。

●感知器との連動による制御方式については、下記に示す二方式があります。

〔ダブルロック方式〕

「火災感知器作動信号」とスプリンクラーヘッド作動による「二次側配管内の減圧信号」のＡＮＤ条件が成立する事により、共同住宅用予作動弁(湿式)の主弁を開放し、二次側配管内に加圧水を送り込み、スプリンクラーヘッドから放水させます。

〔シングルロック方式〕

「火災感知器作動信号」のみにより、予作動弁(湿式)の主弁を開放し、二次側配管内に加圧水を送り込み、スプリンクラーヘッドの作動に備えます。

●「火災」と「水損」の両方から大切な物とかけがえのない人命と財産を守る「最も安全なスプリンクラー設備」である予作動式(湿式)スプリンクラー設備の導入は、超高層・高層共同住宅が次々と建設される２１世紀の現代社会において必要不可欠であることは言うに及びません。また、よりグレードの高い住戸のみを予作動式(湿式)スプリンクラー設備とし、通常の湿式スプリンクラー設備との混在も可能です。

○制御弁の開閉状態監視機能

共同住宅用予作動弁(湿式)に内蔵されている制御弁は、共同住宅用スプリンクラー設備で必要とされる開閉状態を監視する為に、制御弁監視スイッチが取り付けられております。

機能確認時に行う制御弁の閉止操作の復旧忘れや、いたずら等による制御弁の閉止操作を監視することにより、火災時の消火用水の供給、流路を確保出来る構造となっております。

○配線接続作業の簡略化

共同住宅用予作動弁(湿式)には、火災信号スイッチ、制御弁監視スイッチ等の電気配線を必要とする精密部品が組み込まれております。各付属のスイッチへの配線作業を簡略、且つ、確実に行う為、接続端子ボックスを設けており、各付属スイッチへの接続配線については、消防用耐熱電線を使用し、各付属スイッチから接続端子ボックスの端子台まで工場出荷時に結線済みとなっており、現場作業の軽減を実現しております。

○住戸内に警報を出さず動作確認試験の実施が可能

共同住宅用予作動弁(湿式)に設けられた接続端子ボックスにより、アラームスイッチの流水信号および制御弁の状態監視信号を住宅情報盤および住棟受信機へと移信出来る構造となっております。当然、機能確認時には、居住者が居られても住戸内に警報が鳴ってしまい、住宅情報盤にて警報の停止操作の為、住居内に入らせていただく必要があります。

逆に、居住者が不在時には、その警報の停止操作が出来ず、警報がなったままの状態になります。住宅情報盤の機能点検も含め、住戸内に警報を鳴らすのが本来の点検ですが、どうしても警報を鳴らせない住戸については、本製品の各住戸専用ターミナルボックス内に試験用スイッチを設けております。

試験用スイッチとは、「警戒時(定位)」から「試験時」に切り替えることにより住戸内の住宅情報盤へ移信されるアラームスイッチの流水信号を遮断し、警報を発しない状態とすることが出来ます。

同時に住棟受信機へ機能確認を実施している住戸を確認する為の試験信号を移信します。

※試験用スイッチは各住戸専用ターミナルボックスに組み込まれていますので
各住戸専用ターミナルボックスを使用時のみ可能です)

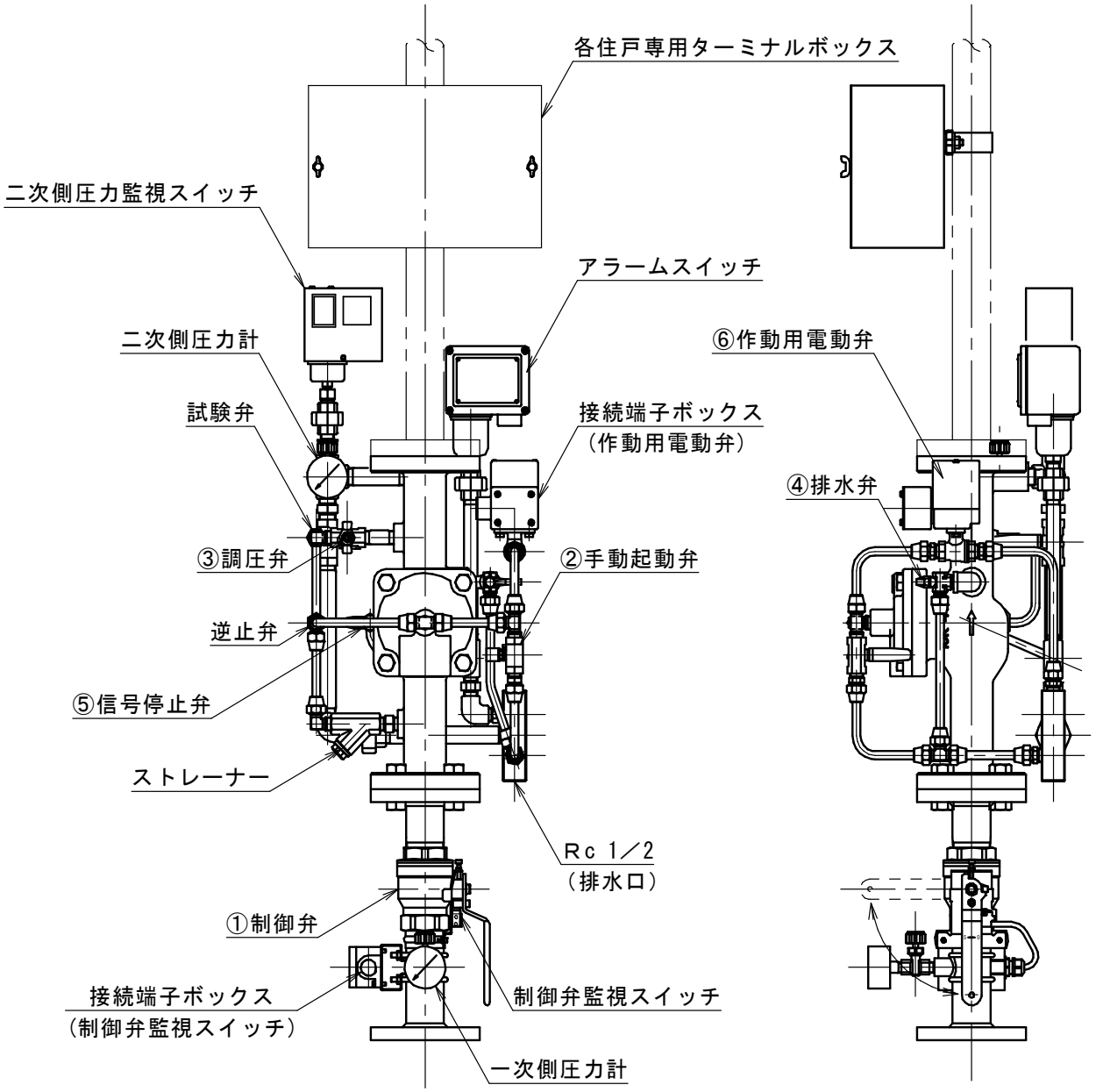
ＰＶＴ－ＡＢＳ－４０　梱包品リスト

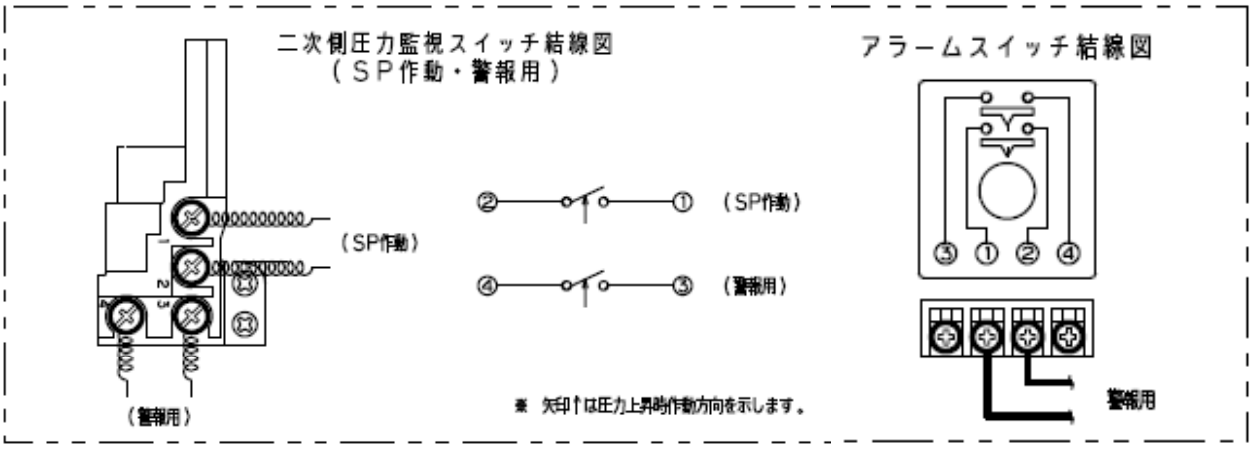
品　名	個数
ＰＶＴ－ＡＢＳ－４０ 本体	1
アラームスイッチ	1
二次側圧力監視スイッチ	1
圧力計 50φ×2.5MPa	2
取扱説明板 PVT-ABS	1
プレート制御弁ＳＰヨコ	1
ＰＶ４０Ａ用常時開･閉プレート６枚入り(ボールチェーン付)	1

基本仕様

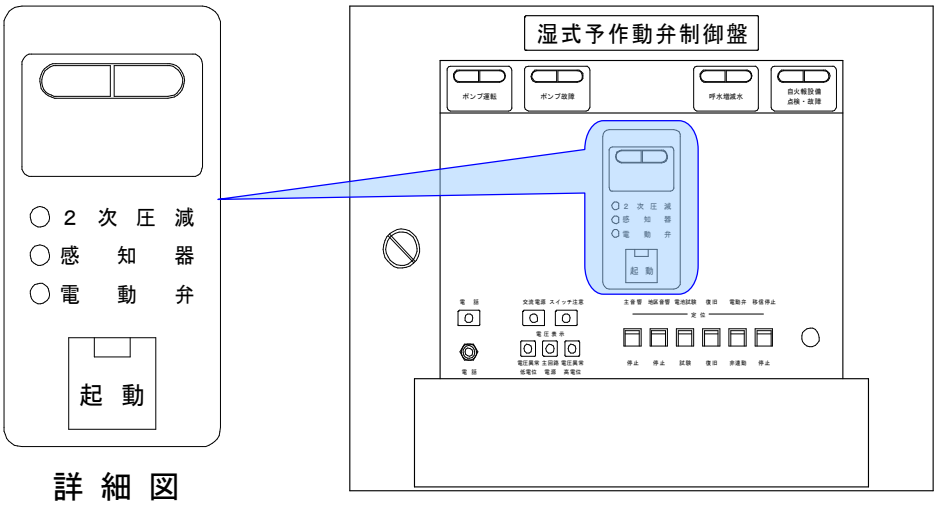
予作動弁（湿式）	製品型式	Ｉ－ＰＶ－４０
	使用圧力範囲	０．１５～１．４ MPa
	耐圧試験圧力	２．１ MPa
	圧力損失値（直管相当長）	０．１ MPa（１７．３ｍ）
	塗装色（マンセル）	赤色（7.5R4/14）
	国家検定（型式番号）	流第１６～１１号
アラームスイッチ	製品型式	ＳＰ－ＡＳ－Ⅶ
	最高使用圧力	１．４ MPa
	接点形式	２ａ
	設定圧力	０．０４ MPa
	設定時間	４ sec
制御弁（東洋バルヴ製）	製品型式	ＲＣ ４０Ａ
	最高使用圧力	１．０ MPa
	耐圧試験圧力	１．５ MPa
	圧力損失値（直管相当長）	０．９ ｍ
	性能評定（整式番号）	評１１－０４４号
制御弁監視スイッチ	接点形式	１ｃ
	使用数量	２個
	結線状態	ａ・ｂ接点　各１個使用
二次側圧力監視スイッチ（ＳＰ作動）（警報用）	最高使用圧力	１．５ MPa
	接点型式	２ａ
	二次側圧力 (MPa)	０．０７（ＯＮ）
		０．１２（ＯＦＦ）
作動用電動弁	最高使用圧力	１．０ MPa
	定格電圧、電流	ＤＣ ２４Ｖ 、１４０ｍＡ
	起動電流	０．５Ａ

共同住宅用予作動弁(湿式)各部名称

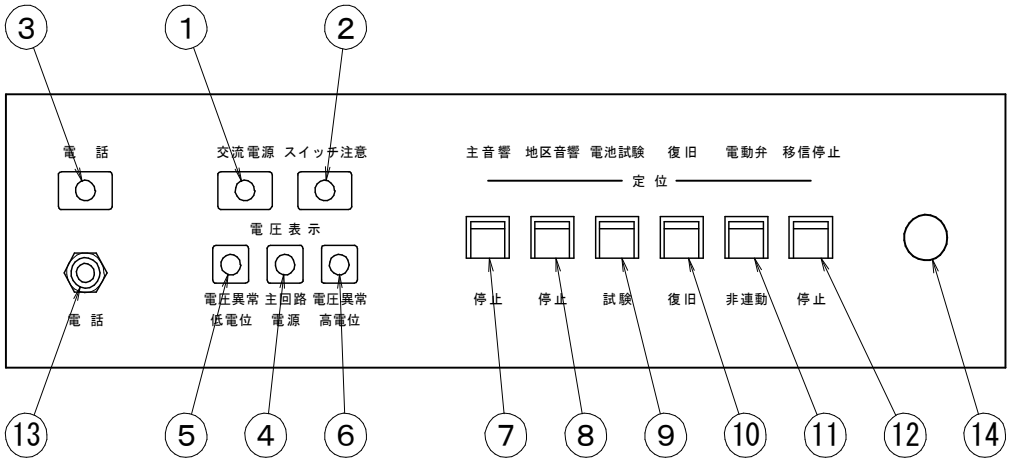




予作動弁制御盤



詳 細 図



各部名称

番号	名　　称	材　　質	番号	名　　称	材　　質
①	交流電源灯	LED	⑧	地区響停止ｽｲｯﾁ	ﾄｸﾞﾙｽｲｯﾁ(ﾛｯｸ)
②	ｽｲｯﾁ注意灯	LED	⑨	電池試験ｽｲｯﾁ	ﾄｸﾞﾙｽｲｯﾁ(自動復帰)
③	電話表示灯	LED	⑩	復旧ｽｲｯﾁ	ﾄｸﾞﾙｽｲｯﾁ(自動復帰)
④	主回路電源灯	LED	⑪	電動弁非連動ｽｲｯﾁ	ﾄｸﾞﾙｽｲｯﾁ(ﾛｯｸ)
⑤	電圧異常低電位灯	LED	⑫	移信停止ｽｲｯﾁ	ﾄｸﾞﾙｽｲｯﾁ(ﾛｯｸ)
⑥	電圧異常高電位灯	LED	⑬	電話ｼﾞｬｯｸ	
⑦	主音響停止ｽｲｯﾁ	ﾄｸﾞﾙｽｲｯﾁ(ﾛｯｸ)	⑭	主音響音孔	

準標準オプション

自火報設備点検・故障対応	自火報設備点検・故障信号が入力されると、全ての予作動弁(湿式)が、感知器が発報したのと同じ状態で待機します。
スイッチ注意代表移信対応	スイッチ注意表示灯の点滅時（スイッチの位置が定位でない場合)、点滅している事の信号を移信出力します。
接続線断線地区代表移信対応	感知器・アラームスイッチ・警報用二次圧監視スイッチ・作動用電動弁の何れかが断線した場合、(予作動弁制御盤では LED が点滅)、断線している事の信号を移信出力します。
交流電源断移信	予作動弁制御盤への AC100V の供給が遮断された場合に信号を移信出力します。
補助散水栓ダブルロック対応	補助散水栓から放水による予作動弁(湿式)の作動を、補助散水栓の L/S と二次側配管内の減圧(２次圧減信号の発報)のダブルロックとします。

予作動弁制御盤機能説明

表示灯、主音響及びスイッチ機能

１．関係者以外は、絶対に手をふれないでください。
２．平常時は、交流電源灯および主回路電源灯が点灯しています、その他の表示灯は消灯しています。
３．停電時は、交流電源灯が消灯し主回路電源灯のみが点灯し、電源が自動的に予備電源に切り替わり監視を続けます。
４．電圧異常低電位灯および電圧異常高電位灯が点灯した場合には、取扱説明書に基づき必要な処置を行って下さい。

○ 交流電源：正常通電の時に点灯し、停電時には消灯します。
○ 主回路電源：正常通電の時、点灯します。
○ スイッチ注意：主音響・地区音響・電動弁・移信停止の各スイッチ操作時に点灯します。
○ 電圧異常低電位：回路電圧が規定値以下の時、点灯します。
○ 電圧異常高電位：回路電圧が規定値以上の時、点灯します。
○ 電話：外部からの電話呼び出しが入ると点灯し、警報ブザーが断続鳴動します。
電話ジャックに電話プラグを差し込むと、警報ブザーが停止し通電可能になります。
○ ポンプ運転：ポンプ盤からの運転信号により点灯し、主音響が連続鳴動します。
○ ポンプ故障：ポンプ盤からの故障信号により点灯し、主音響が連続鳴動します。
○ 呼水槽減水：呼水槽からの減水信号により点灯し、主音響が連続鳴動します。
○ ２次圧減：二次側圧力が減圧すると、該当する区画の２次圧減灯が点灯し主音響が連続鳴動します。又、警報用圧カスイッチへの接続配線が断線すると、該当する区画の２次圧減灯が点滅し主音響が断続鳴動します。
○ 感知器：感知器が作動すると、該当する区画の感知器灯が点灯し主音響が連続鳴動します。又、感知器への接続配線が断線すると該当する区画の感知器灯が点滅し、主音響が断続鳴動します。
○ 地区窓（予作動弁流水）：予作動弁(湿式)が作動すると、該当する区画の地区窓が点灯し主音響が連続鳴動します。又、作動用圧カスイッチへの接続配線が断線すると該当する区画の地区窓が点滅し、主音響が連続鳴動します。
○ 自動火報設備点検・故障：自火報設備からの点検･故障信号により点灯し、主音響が連続鳴動します。(オプション仕様)
○ 起動：手動操作で電動弁を起動させる時、ガードを開き操作します。
操作後、スイッチに内蔵されている表示灯が点灯します。
また、外部から開閉弁スイッチ入力信号により点灯します。(オプション仕様)
○ 主音響：下側に倒すと、主音響が停止します。
○ 地区音響：下側に倒すと、外部接続音響装置が停止します。
○ 電池試験：下側に倒す事により、予備電池の試験が出来ます。電圧異常低電位灯が点灯した時は、充電回路及び電池を点検して下さい。
○ 復旧：下側に倒すと、当該表示灯が消灯し音響装置の鳴動が停止して監視状態に戻ります。
○ 電動弁（非連動）：下側に倒すと、電動弁への電力供給が遮断されます。(手動制御の場合を除く。)
○ 移信停止：下側に倒すと、他設備への移信を遮断します。

※ ポンプ運転・ポンプ故障・呼水槽減水の表示を行う必要がない場合には、文字無刻印のプレートを装着することも出来ます。

注意マークについて!!

故障 故障の原因になります

破損 破損の原因になります

消火性能 消火性能に影響します

事故 事故の原因になります

施工前・保管時における取扱注意

●梱包用ケース、製品の状態を確認して下さい。

故障 破損 消火性能 事故

★開梱の際には、製品の変形、破損等が無いことを御確認下さい。
★梱包用ケースに破損が見られましたら、内部の製品の状態にも注意して下さい。
★開梱時に変形、破損等の異常が発生しておりましたらそのままの状態で速やかに弊社まで御連絡下さい。

●製品、付属品等の数量を御確認下さい。

故障

★同梱している付属品の数量については、別紙「付属品明細」にて御確認下さい。

●保管の際は、梱包に示す各注意事項を厳守して下さい。

故障 破損

●高温多湿・震動のある場所・腐食性ガスの発生あるいは滞留する場所には保管しないで下さい。

故障

●製品は、標準梱包のまま屋内で保管して下さい。

故障

施工時における取扱注意

●本製品の設置および運用につきましては、消防法施行規則を始めとする関係法令に従って行ってください。

故障 破損 消火性能 事故

★本製品の設置場所には、付属品である「流水検知装置取扱説明」も備え付けて下さい。

●本製品のメンテナンススペースを確保して下さい。

故障 消火性能 事故

★施工中の機器設置および竣工後の操作、点検および消耗品取替時等作業上のスペースが必要となります。

●取付け方向・流水方向を間違わないように設置して下さい。

故障 破損 消火性能 事故

★取付け方向等を間違えると正常に機能しません。

●制御配管・電動弁には、足などを掛けないようにして下さい。

故障 破損 消火性能 事故

★各機能が正常に機能しない恐れがあります。

●本製品の構成部品、付属品以外の組合せによる使用は出来ません。

故障 消火性能

★本製品、構成部品及び付属品の組立て、設置の際には別紙機器図面を参考にして下さい。

●配管内のフラッシングは必ず行い、配管内の異物を取り除いて下さい。

故障 破損 消火性能 事故

★ウエス、砂利、その他の異物が詰まっている場合には、誤報等の故障、破損および消火性能が失われる可能性があります。

●落下させたり、衝撃を加えたりしないで下さい。

故障 破損 消火性能 事故

★落下させたり、衝撃を加えたりした製品は、使用しないで下さい。

●消火用水には一般用水を御使用下さい。

故障 事故

★塩分、アルカリ、酸等を含んだ水を使用した場合には、流水検知装置を初めとする設備全体に悪影響をおよぼす恐れがあります。

●二次側配管内への充水時には、出来るだけ残留空気の残らないようにして下さい。

消火性能 事故

★本製品の二次側配管に大量の残留空気があった場合、不時放水時の水損量が多くなります。
必ず二次配管側内の残留空気は、出来る限り排出して下さい。

●付属するスイッチ類への結線時には、必ず電源を遮断してから作業を行って下さい。

故障　事故

★結線時は、必ず電源を遮断し、付属スイッチ等の電圧、電流を確認した上で作業を行って下さい。
★接続端子ボックスへの結線は、ボックスカバー裏面の回路図（一例）を参考にして下さい。
★結線方法は、各現場にて違う場合が御座いますので、確認した上で行って下さい。
★故障の原因となりますので、結線に必要としないネジ以外のネジ、ナットおよび工場出荷時に結線済みのスイッチ、配線等には絶対に触れないで下さい。

●アラームスイッチ・圧力スイッチ・各スイッチ・圧力計は、検査済みおよび調整済み品を出荷しておりますので、ケース蓋・接続端子以外には触れないで下さい。

故障　消火性能　事故

★アラームスイッチ及び付属スイッチ類は、全て精密機器であります。タイマー設定部に限らず、内部部品等には絶対に触れないで下さい。正常に機能しない恐れがあります。

●圧力計の取扱いには、充分注意して下さい。

故障　破損

★圧力計は、全て精密機器であり、絶対に衝撃を与えないで下さい。
★圧力計は、消耗品でありますので使用上、故障が確認された場合は、速やかに交換して下さい。
★**水張りの際圧力計元弁は必ず閉めてからポンプ起動して下さい。**その後、徐々に圧力計元弁を開いて下さい。急激な圧力上昇は、圧力計が破損する恐れがあります。
★圧力計には、下記に示す **JIS で規定された許容範囲が認められておりますので**御注意下さい。

付属品圧力計

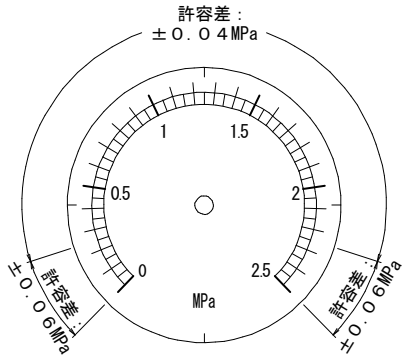
精度等級	大きさ	圧力範囲	目盛数
1.6 級品	φ50	0～2.5MPa	50

許容差：JIS B 7505：1999

許容差	
目盛範囲Ａ	目盛範囲Ｂ
±1.6%	±2.4%

目盛範囲Ａ：圧力スパンの両端各 10%を除いた範囲
当該圧力計では 0.25MPa～2.25MPa の範囲においては、
許容差：±０．０４MPa

目盛範囲Ｂ：圧力スパンの両端各 10%の範囲
当該圧力計では 0～0.25MPa および 2.25MPa～2.5MPa の範囲においては、
許容差：±０．０６MPa



●排水管は大気圧開放とし、アラームスイッチに、排水立て管側からの背圧がかからないようにして下さい。

故障　破損

★アラームスイッチが作動し、誤発報となる恐れがあります。

●凍結を起こさないようにして下さい。

故障　破損

★凍結の恐れがある場所への設置は出来ません。
★寒冷地のみならず、屋内においても凍結の恐れがある場合は、必ず凍結防止措置を施して下さい。

●付属品等の紛失に御注意下さい。

消火性能

★施工手順によっては、開梱後、全ての付属品が取付け終了まで日数を要する場合もありますので、付属品等の紛失には、十分注意して下さい。

設定状態移行時の注意事項

◆　設定状態について

☆　スプリンクラーポンプ起動に際しては、一次側制御弁を『全閉状態』にしてポンプ起動し、一次側配管内に加圧後一次側制御弁を徐々に開放して下さい。
☆　⑥作動用電動弁が全閉になっている事を確認して下さい。
(弊社製予作動盤をご使用の場合は復旧ボタンにて全閉します。)
☆　二次側への給水は、一次側より③調圧弁を開放させて給水して下さい。
☆　二次側圧力が０．１５MPa 以上になった場合は、④排水弁を手動にて開放し警戒圧力である０．１５MPa に減圧、調整を行なって下さい。

◆　警戒状態について

☆　②手動起動弁は、常時閉にして下さい。
☆　⑤信号停止弁は、常時開にして下さい。
☆　④排水弁は、常時閉にして下さい。
☆　③調圧弁は、常時閉にして下さい。
☆　一次側、二次側の圧力計コックは、常時開にして下さい。
☆　①１次側制御弁は、必ず全開にして下さい。

◆　火災発生時

☆　全自動にて作動します。

◆　消火制水について

☆　完全消火を確認後①一次側制御弁及び⑤信号停止弁を閉じ④排水弁を開いて下さい。
☆　ポンプを停止して下さい。
☆　スプリンクラーヘッドの不時放水時には、④排水弁を開けずにスプリンクラーヘッド、の交換を先に行なって下さい。スプリンクラーヘッドの交換前に④排水弁を開けた場合は必要以上の配管内水がそのスプリンクラーヘッドより放水されます。

◆ **復旧について**

☆ 作動したスプリンクラーヘッドおよび破損、燃焼した部分を取替えて下さい。
☆ ②手動起動弁は、常時閉にして下さい。
☆ ⑥作動用電動弁は、全閉して下さい。
（弊社製予作動弁制御盤をご使用の場合は復旧ボタンにて全閉します。）
☆ ⑤信号停止弁は、常時開にして下さい。
☆ ④排水弁は、常時閉にして下さい。
☆ ③調圧弁は、常時閉にして下さい。
☆ 一次側、二次側の圧力計のコックは、常時開にして下さい。
☆ ①一次側制御弁は、必ず全開にして下さい。
☆ 住棟受信機、警報盤、ポンプ起動盤、予作動弁制御盤などの復旧を確認して下さい。

異常時の対応方法（共同住宅用予作動弁（湿式））

異常の状態・症状	予測される原因	対処方法
①二次側圧力が、低下する。	a)接続部からの漏洩の為。	漏洩箇所を修理する。
	b)付属する弁類の漏洩の為。	付属する弁類の開閉状態を確認し、異常があれば交換する。
	c)弁本体（弁座）に異物が噛み込んでいる為。	ポンプ起動状態で排水弁または末端試験を開閉し、フラッシングを行う。または分解、清掃を行う。
	d)三方向継手より本体への配管内部に異物が詰まった為。	ポンプ起動状態で排水弁または末端試験を開閉し、フラッシングを行う。または分解、清掃を行う。
②機能確認時に、流水信号が出ない。	a)配線、結線の不具合の為。	接続端子への配線間違いおよび固定ネジの緩みを確認する。
	b)弁本体よりアラームスイッチへの配管管内に残留空気がある為。	ポンプ起動状態で試験排水弁を開閉し、残留空気を抜く。
	c)内部に異物が詰まった為。	ポンプ起動状態で排水弁または末端試験を開閉し、フラッシングを行う。または分解、清掃を行う。
③機能確認時に、流水信号が止まらない。	a)配線、結線の不具合の為。	接続端子への配線間違い、及び、短絡がないか確認する。
	b)二次側配管内に残留空気がある為。	ポンプ起動状態で試験排水弁を開閉し、残留空気を抜く。
	c)弁本体（弁座）に異物が噛み込んでいる為。	ポンプ起動状態で排水弁または末端試験を開閉し、フラッシングを行う。または分解、清掃を行う。
	a)配線、結線の不具合の為。	接続端子への配線間違い、固定ネジの緩みおよび短絡がないかを確認する。

異常時の対応方法（予作動弁制御盤）

現象	考えられる主な原因	対応方法
①表示灯が点滅する	断線もしくは終端抵抗が入っていない。	断電線の調査、復旧終端抵抗を挿入し、再結線して下さい。
②制御盤が起動しない	ヒューズが破損している。	ヒューズを交換して下さい。

点検時における取扱注意

○外観点検

共同住宅用予作動弁(湿式)

1. ①制御弁は【全開状態】となっているか確認下さい。
2. ⑤信号停止弁、圧力計用ゲージコックは【全開状態】となっているか確認下さい。
3. ②手動起動弁、③調圧用弁は【全閉状態】になっているか確認下さい。
4. ④排水弁は【全閉状態】になっているか確認下さい。
5. 各部より漏水がないか確認願い下さい。

予作動弁制御盤

1. 各スイッチ位置は正常な位置にあるか確認下さい。
2. 交流電源表示灯が正常に点灯しているか確認下さい。
3. 各表示灯が点灯もしくは点滅していないか確認下さい。
4. 制御盤箱に劣化がないか確認下さい。

○機能点検（ダブルロック）

1. 点検区域の自火報設備の感知器を作動させて下さい。
   （予作動弁制御盤の当該区域の『感知器表示灯』が点灯し、警報音が発せられます。尚、他設備との連動停止等については特に間違いの無い様に注意してください。）
2. 点検区域の試験弁を開放し、二次側を減圧させて下さい。
   （予作動弁制御盤の当該区域の『２次圧減表示灯』が点灯し、警報音が発せられます。）
3. 1.2.の作業によりＡＮＤ条件が成立し、共同住宅用予作動弁(湿式)主弁が開放します。
   （この主弁開放により消火用水が流水され、アラームスイッチが作動します。）
4. アラームスイッチが作動した事により、予作動弁制御盤の『地区窓』が点灯し、警報音が発せられ緊急時を知らせます。
   （この作業で作動機能は確認されました。）
5. アラームスイッチ作動の確認後、試験弁を閉止して下さい。予作動弁制御盤より復旧スイッチを下側へ倒して下さい。作動用電動弁が閉止され、流水が止まります。
   尚、復旧には数秒から 30 秒程度掛かることもありますので、復旧しない場合は、繰り返し復旧スイッチを下側へ倒して下さい。
6. 流水の止まった事を確認後、二次側配管内圧力を推奨圧力値である 0.15MPa へ④排水弁にて減圧して下さい。

○機能点検(シングルロック)

1. 点検区域の試験弁を開放し、二次側を減圧させて下さい。
   (予作動弁制御盤の当該区域の『２次圧減表示灯』が点灯し、警報音が発せられます。)
2. 点検区域の自火報設備の感知器を作動させて下さい。
   (予作動弁制御盤の当該区域の『感知器表示灯』が点灯し、警報音が発せられます。)
3. 共同住宅用予作動弁(湿式)主弁が開放します。
   (この主弁開放により消火用水が流水され、アラームスイッチが作動します。)
4. アラームスイッチが作動した事により、予作動弁制御盤に『地区窓』が点灯し、警報音が発せられ緊急時を知らせます。
   (この作業で作動機能は確認されました。)
5. アラームスイッチ作動の確認後、試験弁を閉止して下さい。予作動弁制御盤より復旧スイッチを下側へ倒して下さい。作動用電動弁が閉止され、流水が止まります。
6. 流水の止まった事を確認後、二次側配管内圧力を推奨圧力値である 0.15MPa へ④排水弁にて減圧して下さい。

※スプリンクラーヘッド不時放水時には、④排水弁を開けずにスプリンクラーヘッドの交換を先ず行って下さい。
先に④排水弁を開けた場合には、必要以上に配管内水がそのスプリンクラーヘッドより放水されます。

●消防法令で義務づけられている有資格者における保守点検は、必ず実施して下さい。

●常に警戒圧力値の確認を行って下さい。
平常時との比較の上、異常が確認された場合には、誤作動もしくは作動不良等の恐れがありますので資格を有する専門業者に御連絡下さい。

製品、並びに、記載事項に関する御問い合わせは、
弊社、または、購入元販売店・代理店まで御連絡下さい。

製造元

株式会社 立売堀製作所

本社　〒550-0012
大阪市西区立売堀１丁目１０番１０号
TEL 00-6538-1238　/　FAX 06-6538-1246

PVT-2009-06